




## 大和郡山城跡と金魚の街散策・見どころ

<p>1. 筒井順慶城跡</p>	<p>筒井城は筒井氏の居城として知られています。筒井氏は大和の戦国大名で興福寺衆徒でした。筒井城の城域は、おおよそ南北400m、東西500mと、平地部に築かれた中世の城としては比較的規模が大きいものでした。</p> <p>現在、城址は宅地、畑地、水田となっており、遺構はほとんどありませんが、内曲輪と外曲輪を巡った堀跡が点在しています。</p> <p>筒井城が築かれた時期は不明ですが、至徳3年(1386年)に筒井氏の祖とされる筒井順覚の名が明らかとなっており、築城後は、筒井順覚(初代)から筒井順慶(8代)に亘って筒井家にて引き継がれています。</p> 
<p>2. 金魚資料館</p>	<p>大和郡山の金魚は、江戸時代に柳沢吉保の子・吉里が甲斐の国から郡山藩主として国替わりしてきた時に持ってきたと伝えられ、下級武士の内職として飼育していた技術が明治初期に付近の農家に伝えられ、地の利を得て日本の主要地となりました。</p> <p>「郡山金魚資料館」は1982年に嶋田正治氏(初代代表)が一年中金魚の見る事が出来る観光施設が無いと、私費を投じて開館しました。</p> <p>現在、全国の愛好家や保存会により守り続けられている貴重な品種等約40種類の金魚を展示しています。</p>
<p>3. 大和郡山城跡</p>	<p>郡山城は織田信長が天正8年(1580年)に破城令を出し大和国では一城とした為、筒井順慶は筒井城を拡張していたが、地形の不利から筒井城をあきらめ、郡山城を本城として築城。天正11年(1583年)4月に「天守」を完成。</p> <p>豊臣秀吉の時代に、豊臣秀長が百万石の居城とし、大幅に拡張された。</p> <p>江戸時代には郡山藩がおかれ、その後、柳澤氏が入り幕末まで続いた。</p> <p>明治維新後、多くの建物は破却されたが、近年、追手門・櫓・天守台などが修復・整備された。</p> <p>桜の名所としても有名で、「大和郡山お城まつり」は多くの人々で賑わいます。</p>  
<p>4. 町家物語館</p>	<p>町家物語館は、市内の中心市街地の南東部に位置する町家建築です。</p> <p>大正11年に納屋と蔵が、大正13年に本館と座敷棟が建てられました。</p> <p>当時では珍しい木造三階建てで、遊郭として一世を風靡しますが、昭和33年に廃業。</p> <p>その後下宿となり客間は貸間として利用されました。</p> <p>堅固な構造で質実で洗練された佇まいは今も尚、上流花街の繁栄を偲ばせています。</p> <p>内部には意匠を凝らした欄間や上質な数奇屋造りの小部屋など特殊な建築技法を各所に取り入れ、遊郭建築ならではの造形美を創出しています。</p> <p>平成26年に登録有形文化財となっています。</p> 